

キンボールスポーツ

特徴

キンボールスポーツは、1986年マリオドゥマースによって創案された、協調性や感動の共有を図ることに重要性をおいたスポーツです。

直径1.22m、重さ1kgの大きなボールを、1チーム4人の3チームがヒット(サーブ)とレシーブを繰り返すゲームです。

巨大なボールを床に落とさないようにするために、全員の力が必要となることや、ヒット(サーブ)時には、4名全員がボールに触れなければならないため、各自が積極的に参加しなければならないなど、一体感を味わうことができ、協調性を養うことにも効果があります。

また、参加者の体力、年齢、経験などの条件に応じて、ルールを一部変更することも認められており、柔軟なルールバリエーションが子供から高齢者、そして障害のある方など幅広く楽しめるスポーツです。

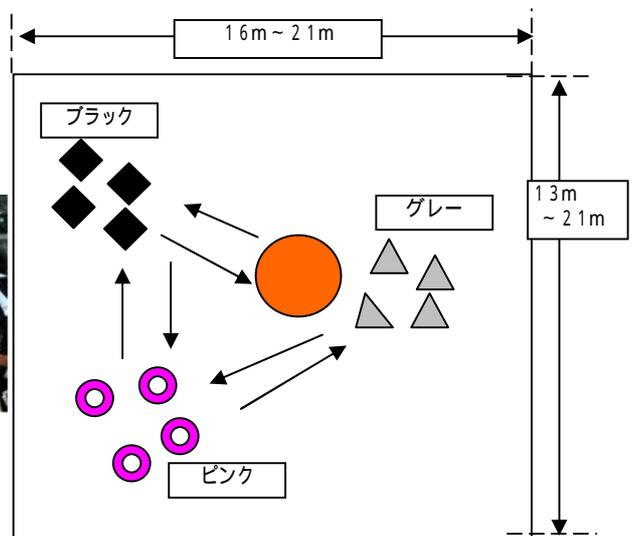
コート大きさや使用する道具

コート:必ずしも正方形である必要はない

最大 21m×21m

最小 13m×16m

ボール:直径 1.22m 重さ 1kg



ルール・競技規則など

1チームは4名(最大登録者数12名)で、コート内に3チームが入り行う。チーム内の交代は何回でも行うことができる。また各チームは、ブラック・グレー・ピンクの3色のゼッケンを着用する。

コートの大きさ、試合時間などは、身体条件・年齢・経験の有無などを考慮して決定してよい。

通常は、1ピリオド7分~10分で3試合を行う。

得点は、レシーブミスやヒットミス反則などを行った場合、他の2チームに1点ずつ得点され、ピリオド終了時に最も得点の高いチームが勝者となる。

ヒット(サーブ)権のあるチームは、3人がボールを支え、1人がボールを打つ。その際に、レシーブするチームを指名し、そのチームの色をコールしてヒットする。(コールは、「オムニキン」という。)

レシーブの指名を受けたチームは、ヒットされたボールが床に落ちる前にレシーブし、チームで協力しながらボールを床に落とさないようにする。レシーブが成功した場合は、レシーブチームがヒットする番となり、レシーブするチームを指名してヒットする。これを繰り返して、ミスやボールが床に落ちた場合などで得点を争う。

ヒットする場合は、そのチームの全員がボールに触れていなければならない。

ヒットは、腰から上であればどの部分を使ってもよい。ただし、ヒット時に全員がボールに触れていない、正しくコールしなかった場合、そしてヒットしたボールが1.8m以上飛ばなかった場合や直接コート外に出た場合などは、ヒットするチームのミスとなり他のチームの得点となる。

レシーブは、体のどの部分を使ってもかまわない。ただし、レシーブできなかった場合やレシーブしたボールがコート外に落ちた場合、そして、最初にレシーブしてから10秒以内にヒットできなかった場合などは、そのチームのミスとなり、他のチームに得点される。

詳しい内容を知りたい場合

一般社団法人日本キンボールスポーツ連盟

ホームページ: <http://www.newsports-21.com/kin-ball/>